



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより 4月号

令和 4年 4月 7日
横浜市立青木小学校

学年としての力

校長 永野 美雄

今年は厳しい寒さが長く続き、春の訪れを待ちわびるような冬でした。ここに来て、ようやく暖かさを感じる日がやってきたと思えば最高気温が10℃を下回るような日もあり、子どもたちが育てたチューリップも花弁をすぼめて寒さをしのいでいるようでした。その分、今日のような春の暖かさは心地よく、有り難さを感じます。春を告げる草花が咲き競い、「光の春」「音の春」に続いて暖かさを伴った本格的な春がやってきました。

さて、青木小学校ではこれまで、異学年が横に並ぶ教室配置を行ってきました。異学年交流の日常化をねらいとして、縦のつながりに重点を置いてきました。4年間実施し、一定の成果を収めることができました。特に1年生と6年生は微笑ましい姿がよくみられていました。

一方で、課題になっていたこともあります。児童の横のつながりと、学年としての指導体制です。

学年が上がるにつれて同学年の横のつながりを求める姿をみるがありました。例えば朝の昇降口の風景です。高学年を中心に昇降口近くで学年同士で集まり、しばらく話をしてからそれぞれの教室に向かう子どもたちが多くみられました。教室が離れている故の姿でした。

指導体制については、青木小学校では、学年の子どもたちを学年の先生全員で指導していく方針をもっています。昨年度までの異学年の教室配置の下でも、学年内の教科分担制などを通して、この方針を具現化してきました。さらに強化を図ることを考えた時、教室配置を再考する必要がでてきました。

そこで今年度から、学年が横並びとなる配置に変更することにしました。このことにより、学年としての一体感をもって学級を超えた横のつながりを大切にするとともに、学年としての指導力を最大限に活かすことを目指していきたいと思えます。担任が不在の時に同学年の先生が支援に入るなど、イレギュラーなことにも今までよりきめ細かく機敏に対応しやすくなります。

学年を基本とした教室配置に変更しますが、異学年の交流活動にはこれからも変わらずに力を入れていきます。全校遠足、縦割り掃除、縦割り遊びなどは継続します。学習の中でも、調べたことを伝える場面で異学年を意識するなど、積極的に異学年との交流の機会を作るようにしていきます。

異学年交流を通した優しい心の育成を堅持しつつ、学年がまとまることで生まれる強みを活かす体制を教職員で確認して、令和4年度をスタートしました。今年度も、教育活動へのご理解とご協力をよろしく願います。